

地域の子どもたちの健やかな成長を願って

けんもり 特別支援教育だより

岡山県健康の森学園
支援学校

編集
特別支援教育係

平成25年6月3日

平成19年度にスタートした特別支援教育は7年目を迎え、各学校園や地域の支援体制も整い、子どものニーズに応じた支援が行われるようになってきています。

特別支援学級に在籍している児童生徒については、既に個別の指導計画や個別の教育支援計画が作成・活用されており、進学先の学校にもこれらの計画を基に支援情報の引き継ぎが行われるようになってきていますが、通常の学級に在籍している場合には、まだ計画を基に校内の共通理解が図られていない（言い換えると、適切な指導や支援が行われていない）事例もあると考えられます。

平成24年12月に公表された国の実態調査では、小・中学校の通常の学級に6.5%（約15人に1人）の割合で、特別な教育的支援を必要とする児童生徒が在籍しているとされています。一人一人に必要な支援の程度には違いがあり、現時点では表面的に問題がなくても将来支援が必要となる可能性のあるものも含めると、さらに多くの児童生徒がいると考えられます。

特別支援教育についての理解や支援体制の整備が進むに連れて障害が早期に発見され、適切な支援を受けられるようになってきた反面、医療による障害の診断等がなされない場合に必要な支援が受けられていない事例もあり、診断の有無が支援の必要性の有無に結びつけられているようにも見受けられます。また、実態把握の必要性を強く意識するため、児童生徒の持ち味よりも課題の部分にばかり目が向きがちにもなっています。

特別支援教育では、全ての学校で教職員が特別支援教育について理解し、児童生徒の実態を把握したり教育上必要な支援を考えたりする力が求められています。特別支援教育充実のためには、診断等の有無に頼るのみでなく、教育の専門家として特別支援教育の十分な理解により、一人一人の児童生徒の実態を適切に把握し、適切な指導や必要な支援を行う教職員や学校を目指したいと考えます。このことは、特別支援教育の視点を生かした学級経営や学習指導が進められることになり、学力向上や落ち着いた学校づくりなどにもつながるものと考えます。

今年4月に第2次岡山県特別支援教育推進プランが策定され、全ての学校等で特別支援教育の一層の推進が求められ、特別支援学校には地域における特別支援教育のセンター的役割をさらなる発揮が求められています。本校は引き続き

「専門指導員派遣事業」による教員派遣や公開講座の実施、交流学习の推進や各種情報提供等により、地域の特別支援教育の充実や障害のある子どもたちのよりよい自立と社会参加に向けて、備北地域の特別支援教育のセンターとしての役割を果たしていきたいと考えています。

（今年度も、どうぞよろしくお願い申し上げます。）



校長 黒山靖弘



子どもに学びをもたらす授業

昨年末、平成 24 年 12 月に、文部科学省初等中等教育局特別支援教育課から、「通常学級に在籍する発達障害の可能性のある特別な教育的支援を必要とする児童生徒に関する調査結果」が公表されました。

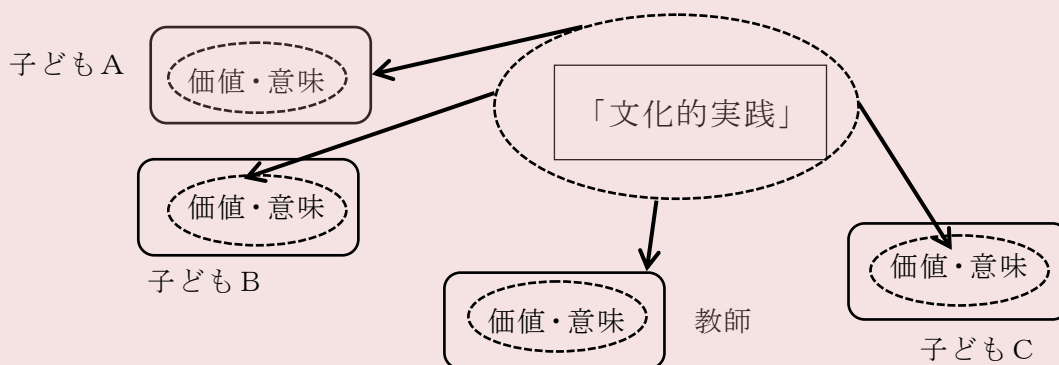
知的発達に遅れはないものの学習面または、行動面で著しい困難を示すとされた児童生徒が 6.5%在籍しているという報告がありました。40 人学級であれば、2 人以上在籍していることとなります。そのうち、約 8 割が校内委員会で特別な教育的支援を必要と判断されていませんでしたが、大半の学校で担任の努力、指導の工夫などで対応されていました。しかし、約 4 割の児童生徒は、いずれの支援もなされていませんでした。

子ども達の学びを中心にした「協同学習」という学習形態があります。「文化的実践」(科学、芸術、宗教など、さまざまな分野にわたる文化活動の総称)の価値や意味を、教師から子ども達に、「これは大事だから(テストに出るから)覚えておきなさい。」と教えていく「教え込み型授業」ではなく、「文化的実践」に出会った子ども達が、仲間との対話を重ねながら、その価値を見だし、意味を紡いでいくという学習です。授業のねらい(目標)を決め、学習課題(めあて)をめぐって、教材とつながり、友達とつながりながら、子ども同士が関わり合い、学び合います。最終的には、自分の言葉で表現するという活動を通して、文化的実践の価値や意味を作り出していきます。

毎日の授業を、楽しいと感じることができるようにしていくことも、子ども達の「困り感」を軽減することにつながるのではないのでしょうか。

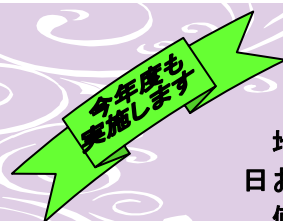


「子どもに学びをもたらす授業」モデル



(参考文献)

「どの子どもこぼれ落とさない授業づくり 45 佐藤暁著 岩崎学術出版社」

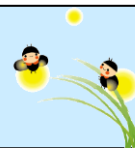


明日から実践! 参加型学習会

地域の皆様と御一緒に勉強していきたいと思っています。詳細は、後日お知らせします。

備北地域の保・幼・小・中・高等学校の教職員や関係機関の方々など、多くの御参加を心よりお待ちしております。

教育相談の御案内



本校では、就学や進路、発達の違いや気がかりな面がある子どもの支援などについての相談を行っています。子どもや家族の幸せを願い、地域の先生方をはじめ、子どもに関わる皆さまと一緒に考えていきたいと思っております。お気軽に御連絡ください。

○まずは、お電話でお問い合わせください。



0867-96-2995 長濱まで

☆相談内容

昨年度の例

- ・生活全般での気がかりなこと
- ・コミュニケーションに関すること
- ・学習や学校生活に関すること
- ・就学・進路に関することなど

※巡回相談については、本校ホームページにてまとめを掲載しています。そちらを御参照ください。

☆相談方法

- ①電話での相談・メールでの相談
- ②来校相談（本校においていただいた御相談）
- ③巡回相談（県の専門指導員派遣事業に基づいて、本校職員が学校・園を訪問します。この相談には各市町村教育委員会を通して所定の手続きが必要です。）

☆その他

- ・相談内容の秘密は厳守します。
- ・相談日・相談方法・相談時間帯等の設定は、御希望を伺いながら進めさせていただきます。
- ・必要に応じて他の専門機関（医療・福祉等）とも連携し、よりよい支援を探ります。
- ・相談はすべて無料です。

教育支援係



長濱 益次 副校長

★県の専門指導員派遣事業に基づいての巡回相談は、本校の特別支援教育コーディネーターが対応します。



小割 正史



光島 由忠



柴田 靖子

◎長濱益次副校長が窓口となります。

お電話で日程等を調整後、申請をしていただきます。

本校の取り組み

教育相談

- ・ 電話相談
- ・ 来校相談
- ・ 巡回相談

公開授業

学校公開

6月 5日(小・中学部)
(高等部)
10月 4日(高等部)
18日(小・中学部)

公開研修講座

参加型学習会

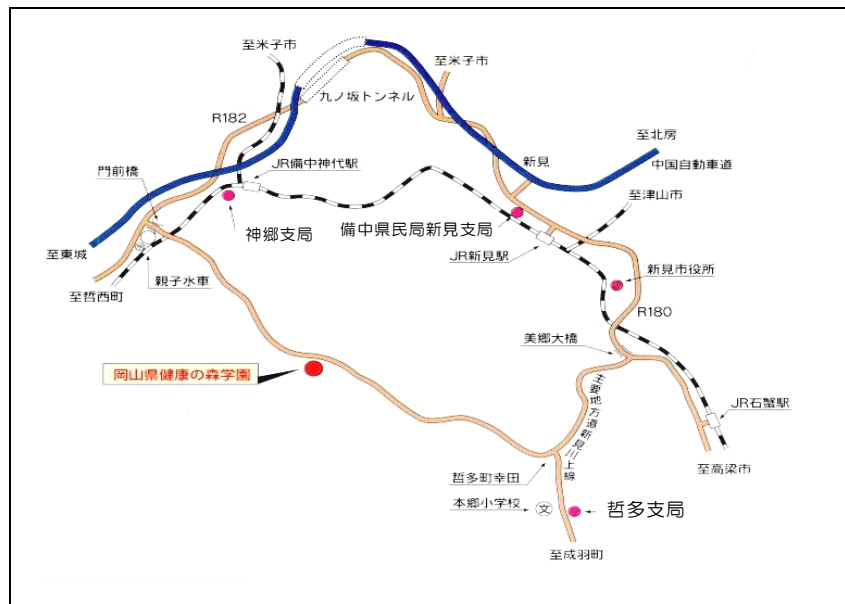
教材・教具 貸し出し
検査道具

◎詳細は、それぞれ御案内させていただきます。

本校ホームページにも掲載していきますので、御覧ください。

交通案内

- J R新見駅から新見市営バス
本郷行健康の森学園下車
- J R石蟹駅からタクシーで
約20分(約11km)
- J R新見駅からタクシーで
約25分(約14km)



住所 〒718-0313 岡山県新見市哲多町大野 2034-5
電話 (0867) 96-2995 FAX(0867)96-2998
E-mail kenmorisien@pref.okayama.jp
HP <http://www.kenmorisien.okayama-c.ed.jp/>

